



J R 西日本グループ
中期経営計画 2017

次の一步へ。
地域と共に。

2013年3月13日
西日本旅客鉄道株式会社



▶ 01. はじめに

02. 経営の3本柱

03. 中期経営計画のあらまし

04. 中期経営計画の推進

05. めざす未来 ～ありたい姿～

06. 重点戦略

07. 基盤づくり

08. 社会の一員としての責任

09. 財務指標、株主還元

10. 次の一步へ。地域と共に。

信頼回復に向けて

当社は、2005年4月25日に福知山線列車事故を惹き起こし、106名のお客様の尊い命を奪い、500名を超える方々にお怪我を負わせてしまいました。

事故の責任とその重大性を重く受け止め、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々とそのご家族の皆様に対し、心から深くお詫びを申し上げます。

現在、安全で安心・信頼される鉄道を築き上げるために全力で取り組んでいるところであり、成果が徐々に現れつつあると認識しています。一方で、課題も見えてきており、引き続き、信頼回復に向けた一層の努力を重ねていきます。

前中期経営計画の振り返り

2010年10月に「JR西日本グループ中期経営計画2008－2012見直し」を公表し、「事業活動を通じて西日本地域の活性化に貢献するために、安全マネジメントにおいて卓越し、お客様、地域、社会から信頼される企業グループ」となることを経営ビジョンと定め、その実現をめざしてきました。

「安全」については、「安全基本計画」を2008年から5ヶ年にわたり取り組んできました。柱に挙げた「リスクアセスメント」により、多くのリスク低減を図り、社員の安全意識向上も図られるなどの成果があがりつつある一方、

鉄道運転事故や死亡に至った労働災害は依然発生しており、引き続き「安全考動計画2017」においてレベルアップを図ります。

「九州新幹線直通運転」「OSAKA STATION CITY」の「2大プロジェクト」は、多くのお客様にご利用いただき、活発な地域間の交流が生まれましたが、百貨店事業については、店舗の刷新を進めています。

「地域との共生」「技術による変革」「現場起点の考動」は、新たな連携や社員が主体となった取り組みが各地で芽生えており、引き続き推進します。

財務指標は、連結営業収益は未達となるものの、連結EBITDA（営業利益＋減価償却費）、連結ROA（総資産営業利益率）については達成する見込みです。

株主還元の充実については、「2大プロジェクト」や財務指標の達成状況を踏まえ、連結DOE（純資産配当率）3％の方針に基づき、年間配当を2013年3月期において1株あたり110円とする予定です。

次の一步へ。地域と共に。

今後は、人口減少に加え、グローバル化やネットワーク化、地域間格差拡大、価値観の多様化など、経営環境を見通すことが一段と困難な時代を迎えます。

これまでの鉄道中心の事業モデルだけでは、いずれ持続的な成長が困難となる事態も想定され、

JR西日本グループの経営は、大きな転換点にあります。

このような認識のもと、本計画では、「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」

「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」を「経営の3本柱」として、引き続き経営の最重要課題と位置づけたうえで、新たに「めざす未来 ～ありたい姿～」を掲げ、その実現に向けた重点戦略を実行します。

JR西日本グループは、新たな時代に向けた次の一步を踏み出し、地域と共に歩んでいきます。

01. はじめに

02. 経営の3本柱

「経営の3本柱」

以下に掲げる「経営の3本柱」を、本計画においても経営の最重要課題として位置づけます。

今後も経営陣が先頭に立ち、強い決意を持って着実に推進し、信頼の回復に向けた努力を重ねていきます。

被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み

ご被害者の皆様に真摯に向き合い、精一杯の対応に努めていくという当社の姿勢は今後も変わることはありません。

今後ともご被害者の皆様のお気持ちやご意見をお伺いしながら、しっかりと取り組んでいきます。

安全性向上に向けた取り組み

JR西日本グループの最大の責務は、福知山線列車事故のような事故を二度と発生させないよう、

安全で安心・信頼してご利用いただける鉄道を築き上げていくことです。

これまでの取り組みの成果と課題を振り返ったうえで、新たに策定した「安全考動計画2017」を着実に実行し、

さらなる安全レベルの向上を実現すべく全力で取り組んでいきます。

グループ全体の事業活動においても、安全と信頼を確かなものにしていきます。

変革の推進

安全で安心・信頼してご利用いただける鉄道を築き上げていくためには、安全やサービスの最前線である現場はもちろんのこと、

あらゆる職場で働くグループの全員が、お客様を常に意識し、現場で起こっている様々な課題を共有したうえで、

スピード感を持って自律的にかつ連携して解決に取り組むことが必要となります。

こうした「現場起点の考動」を一人ひとりの行動原則として定着させていくことが、企業風土の改革につながるものと考えています。

今後とも風土改革の取り組みを粘り強く進めることにより、一人ひとりが常にお客様を意識し、

自らの仕事が安全性の向上や信頼の回復、そして地域や社会につながっていることを実感しながら、

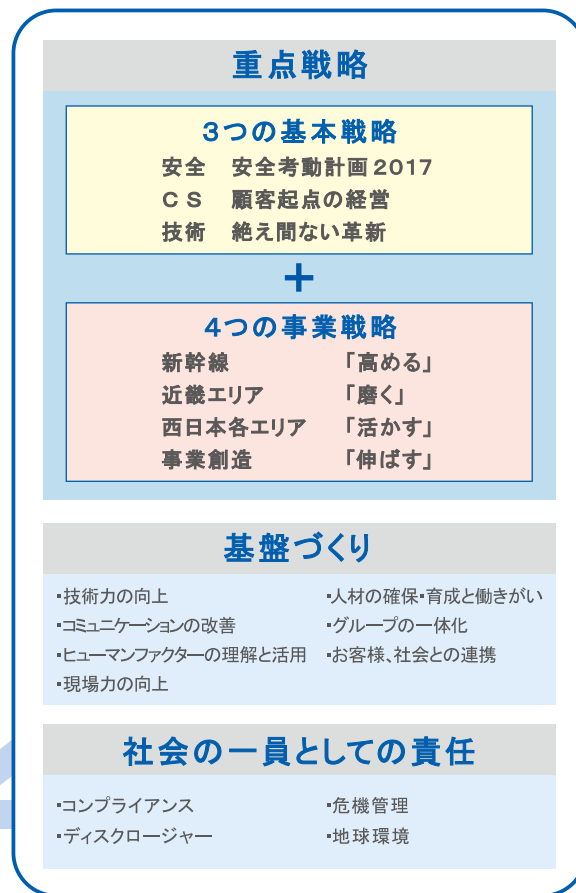
誇りを持って働けるような企業風土を築き上げていきます。

中期経営計画のあらまし

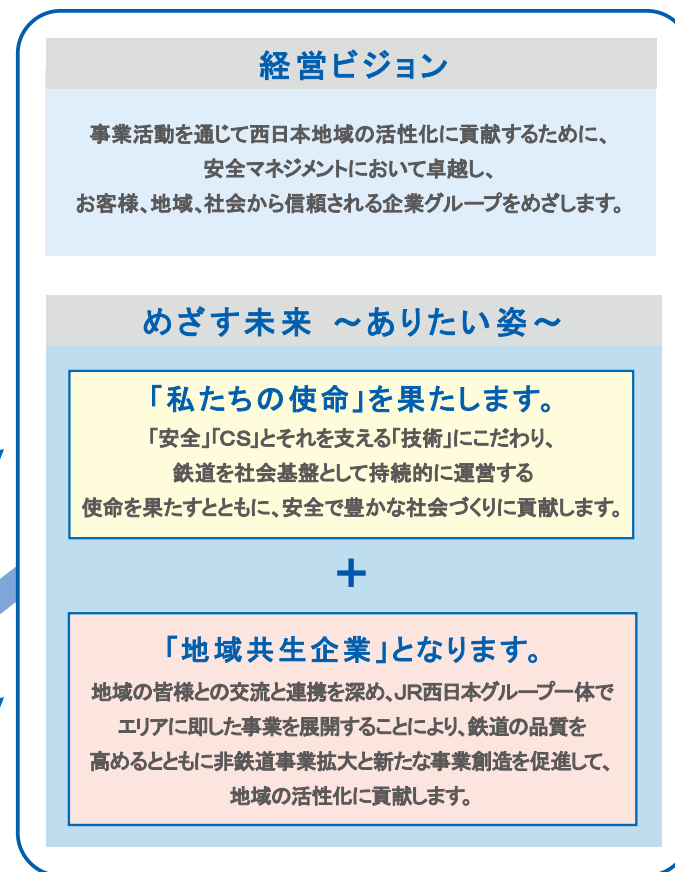
経営ビジョンを具体化するため、JR西日本グループの「めざす未来～ありたい姿～」を新たに掲げました。

「3つの基本戦略」と「4つの事業戦略」からなる「重点戦略」を実行するとともに、「基盤づくり」を進め、「社会の一員としての責任」を果たし、これからの時代の「新しいJR西日本グループ」の実現に向けて、「次の一步」を踏み出します。

2013－2017



これからの時代の 「新しいJR西日本グループの姿」



現在

未来

01. はじめに
02. 経営の3本柱
- ▶ 03. 中期経営計画のあらまし
04. 中期経営計画の推進
05. めざす未来～ありたい姿～
06. 重点戦略
07. 基盤づくり
08. 社会の一員としての責任
09. 財務指標、株主還元
10. 次の一步へ。地域と共に。

03. 中期経営計画の あらまし

一人ひとりの考動で実現していく中計

中期経営計画2017は、「一人ひとりの考動(自ら考え行動する)で実現していく中計」と位置づけます。

グループ全体で目標を共有して、本社、支社、現場とグループ会社がそれぞれの役割を果たすための具体的施策を立案します。

グループの全員が、「一人ひとりの考動」を通じ目標の実現に向けた取り組みに参画し、

「社員の誇り、働きがい→お客様の安心、信頼、満足→西日本地域の活性化」という流れがさらに「社員の誇り、働きがい」につながる好循環を生み出すことで、JR西日本グループの持続的発展をめざします。

大切にするのは「現場起点の考動」

JR西日本グループの事業は、連携と支え合いの集合体であり、

強固なチームワークと個々人の実力発揮の

両方が求められます。

現場起点での一人ひとりの考動を

チームとして結集することで

中期経営計画を推進し、

目標の実現に向けて、

「次の一步」を踏み出します。

企業理念
安全憲章

中期経営計画
安全考動計画

共有

グループの目標

目標の実現

JR西日本グループとしての考動

支社・部門・グループ会社としての考動

職場・チームとしての考動

一人ひとりの考動

社員の誇り、
働きがい

西日本地域の
活性化

お客様の
安心、信頼、満足

参画

- 01. はじめに
- 02. 経営の3本柱
- 03. 中期経営計画のあらまし
- ▶ 04. 中期経営計画の推進
- 05. めざす未来 ～ありたい姿～
- 06. 重点戦略
- 07. 基盤づくり
- 08. 社会の一員としての責任
- 09. 財務指標、株主還元
- 10. 次の一步へ。地域と共に。

04. 中期経営計画の 推進

経営ビジョンを具体化するため、

「めざす未来～ありたい姿～」を新たに掲げ、
これからの時代の「新しいJR西日本グループ」を実現していきます。

1. 「私たちの使命」を果たします。

社会が成熟していくなか、JR西日本グループは、「安全」「CS」とそれを支える「技術」にこだわり、
鉄道を社会基盤として持続的に運営する使命を果たすとともに、安全で豊かな社会づくりに貢献します。

(1) 安全

- お客様を安全に目的地までご案内するとともに、業務に携わる誰もが、大怪我や死亡に至ることがないように、安全のレベルを着実に向上します。

(2) CS

- お客様のニーズにお応えする価値(安全やサービス)を継続的に提供する「顧客起点の経営」により、顧客満足を向上します。

(3) 技術

- 「安全」「CS」を支える「技術」の革新により、安全性と利便性をさらに高めます。

2. 「地域共生企業」となります。

地域の皆様との交流と連携を深め、JR西日本グループ一体でエリアに即した事業を展開することにより、
鉄道の品質を高めるとともに非鉄道事業の拡大と新たな事業創造を促進して、地域の活性化に貢献します。
地域との共生を通じ長期持続的に成長する「エリア経営」を実現することで、2030年時点で連結売上高1兆4,000億円をめざします。

(1) 新幹線

- 将来にわたり経営の柱としてJR西日本グループを牽引し、人々の交流の促進を通じて西日本地域の活性化に貢献します。

(2) 近畿エリア

- 安心・信頼の鉄道輸送と生活関連サービスを機軸に、暮らしを豊かにする「価値」を提供し、
豊かな近畿エリアの創造に主体的な役割を果たします。

(3) 西日本各エリア

- 持続可能な地域交通のあり方を地域の皆様と検討するとともに、地元自治体や企業などと連携し、
JR西日本グループ一体で「エリアに即した事業」を展開することで、「地域に欠くことのできない存在」となります。

(4) 事業創造

- 生活関連サービス事業のさらなる成長と新たなエリアでの展開に加え、
新たな事業分野への挑戦により、人々の快適な生活と社会の発展に貢献します。
さらに、海外展開も視野に入れながら、JR西日本グループの持続的成長に資する事業の「新しい柱」を確立します。

- 01. はじめに
- 02. 経営の3本柱
- 03. 中期経営計画のあらまし
- 04. 中期経営計画の推進
- ▶ 05. めざす未来～ありたい姿～
- 06. 重点戦略
- 07. 基盤づくり
- 08. 社会の一員としての責任
- 09. 財務指標、株主還元
- 10. 次の一歩へ。地域と共に。

05.
めざす未来
～ありたい姿～